

第二章

第三節

江戸時代の医師

～庶民にとって身近になってきた医療～

かつて「医療」は、幕府や武士など支配階級だけのものでした。医療が少しずつ身近なものになって、庶民も治療を受けられるようになったのは、徳川八代将軍「吉宗^{よしむね}」の頃から。

医師は自宅を療養所として開放する一方、薬箱を持参して往診に回るのが定番のスタイル。江戸の医療の守備範囲は、内科、外科、眼科、歯科などの診療科目は、現代とほぼ変わりません。この時代にはまだ医師の資格制度がありませんでした。身分とは関係なく、実力さえあれば医師として活動できました。

^{あんま}按摩師や^{しんきゅう}鍼灸師も医師と同様の扱いを受けていました。

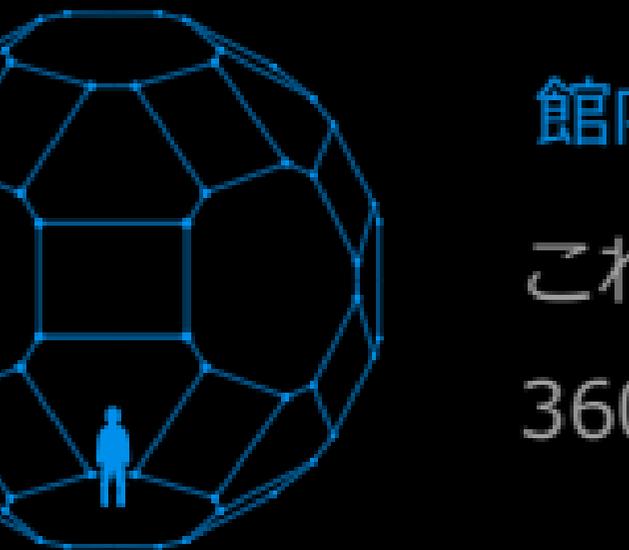


じんりんきんもうすい
 「医師の絵」人倫訓蒙図彙より

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <https://www.tcm.it.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.